

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1270401126
法人名	株式会社マウントバード
事業所名	グループホームわかばの家
所在地	千葉県千葉市若葉区東寺山町399-1 (電話) 043-290-8177

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成19年10月26日
評価確定日	12月18日

【情報提供票より】(19年10月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	18 人
常勤	4人
非常勤	4人
常勤換算	4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他	食費45,000+水道光熱費20,000+実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合償却の有無	有(期間:3年)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(10月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	増田病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高速道路のインターから近く、車での来訪が便利であるにもかかわらず、周りは緑に囲まれている。ホームは木をふんだんに使い、採光も十分で、明るく温かみを感じさせる。居室は、思い思いの家具や、趣味の作品等で、居心地の良さそうな空間になっているとともに、廊下の突き当たりや置かれたソファやウッドデッキ、リビングの畳部分等、共有空間においても、ほっと一息つける場所が沢山ある。運営者、管理者、職員が自らつくりあげた理念のもとに、情報を共有し、ともにサービスの質の向上に取り組んでおり、入居者の表情は穏やかである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、一番の課題だった鍵については、現在日中鍵をかけない取組みをしている。職員の見守りに頼らざるを得ないので、負担はあると思うが、見守り方法の工夫や、入居者一人ひとりの外出傾向の把握で、このまま取組みを続けられることが期待される。市町村との関わりについても、2ヶ月ごとの運営推進会議の開催等、努力を続けている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が出席する会議で意見を出し合い、自己評価のために、さらに数回話し合いを重ね、まとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町会長、千葉市あんしんケアセンター、入居者家族等にメンバーに入ってもらって、2ヶ月に1回、開催している。議題はホームの紹介、推進会議の意義と目的、包括支援センターとの連携、地域行事への参加等である。まだ、出来てから2年目のホームなので、会議を足がかりのひとつとして、地域に入っていこうとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会が多いので、その際には、積極的に意見を聞くようにしている。ご意見箱の設置もしているが、なかなか意見は寄せられない。運営推進会議には家族の出席があるので、そこで出される意見は、運営に取り入れていきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に住宅がなく、自治会や老人会もないため、このホームにとって、一番難しい課題となっている。現在、道を模索中であるが、第一歩として、近くの神社の清掃に入居者と一緒に参加する予定にしている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、職員全員でつくったホーム独自の理念がある。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、理念を唱和することで、共有し、日々のケアにおいては、職員の拠り所となっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に住宅がなく、自治会、老人会もない中で、隣町のお祭りに参加したり、小学校の運動会の見学にいたり、できることから始めている。		土地柄、さまざまな困難があるが、ホームが孤立しないためにも、少しずつ、地域との交流の機会をつくるのが望まれる。まず、近所の神社の清掃に同居者と一緒に参加することを考えているので、継続的な参加を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は意義を理解している。職員全員参加の会議で、改善に向けての話し合いがされ、実行されている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の予定で開催されている。議題も、サービスの向上に活かせる内容になっている。地域とのつきあいにつながる足がかりとしても、期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何かあれば、市の担当窓口相談をしている。また、市主催の研修にも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真を添えて、入居者の様子を、細かく伝えている。お小遣いについては、家族の面会時に、小遣い帳を確認してもらい、サインをもらっている。		定期的に面会に来る家族については問題ないが、都合で、数ヶ月に1回しか来訪できない家族については、毎月、小遣い帳のコピーを送付する等の工夫があると良いと思われる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には積極的に声かけをして、意見、要望を聞くようにしている。		面と向っては言いにくい事項もあることが予想されるので、例えば、年何回か家族だけで話し合う機会を設け、そこで出された意見を運営に反映させることが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は少ないが、その場合でも、ダメージを最小限にする体制がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については情報を提供し、希望者は参加している。内部研修の充実を図るため、すでに年間カリキュラムを組んで、全員参加で実施することになっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に入っており、そこでの研修等と通じて、少しずつ交流の機会は増えている。		今後は、相互訪問や地域のネットワークづくりにつながるような活動に発展することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、本人に見学してもらい、すでに入居している人たちと、一緒にお茶を飲む機会をつくったりしている。入居後も、ホームの生活に慣れるまで、職員が注意深く見守っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や、お鍋がこげた時にはどうするか等、職員が入居者から教わることは多い。何か教えてもらったときには、必ず感謝の気持ちを伝えるようにしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の意向、希望については、会議を通じ職員間で共有できている。最近の事例として食事の座席に関して入居者本人の希望と納得の上で全員の同意を持って座席の配置変更をした事実がある。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>フロア会議の中だけでなく職員が家族と接した時の声を大切にしている。針仕事の復活、包丁の使用など具体的な発見を大切にして介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>プランの見直しは、随時行っている。状態の変化については、医療機関との連携や指示に沿って家族、関係者と話し合いの上計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病気加療後の退院については、全部の入居者が復帰し元通りの生活をしている。今後の取組みとしては、外泊支援、外部からのショートステイの受け入れを考えている。旅行や外出の支援が、多岐に渡り行われている。		
つしょうと					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診希望についてはその通りの形態で行われている。入居者ごとの診療についても、利用者と家族との相談、了解の上で行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病態によるが原則としては、点滴や中心静脈栄養などの医療行為が必要になる直前までサービスの提供を行なう事を方針として共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報(個人ファイル・記録)には、鍵をかけている。又排泄、入浴は、施錠しておこなっている。入居者の前で他の入居の者個人的な話をしない等が徹底されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日一緒に行なっている事以外にもミシンで他の入居者の服の修繕をする者、編み物をする者、家電の好きな者が行く大型電機店への散歩等その日やりたいことを把握して希望に沿った取組みを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で出来た作物を皆で収穫し食材の一部としている。揚げ物が得意なひとには、揚げてもらい盛り付け、配膳、後片付けも職員と一緒に周囲との会話を絶やさず行なっている。カレー、シチューの日は、男の料理日として取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日好きな時間に入浴が出来る仕組みがある。その日の一番風呂は、順番制としており時計状の札を作り全員が楽しむ事が出来る様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物(毛糸の茶碗洗い、敷物)、牛乳パックの小物入れ、雑巾、買物に出かけた際に買った植木などさまざまなものがホームの中で活用され使う楽しみとなっている。庭での運動会も行なわれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩は、組み分けして行なっている。菓子や日用品の買物は、希望に沿った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵を掛けないケアが行なわれている。施錠をしない見守りの徹底と安全に過ごせる工夫が期待される。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自の災害マニュアルは作られているが、定期的な避難訓練が行なわれていない。		消防署の実施指導及び防災管理者の設置、飲料水等の備蓄が早急に行なわれるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作った献立を使っているので栄養バランスの取れた食事が提供できている。水分についても自由に摂取できるようカウンターに用意されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地の活用により広いウッドデッキを通し自然光が取り込める。職員の声、TVの音等も考慮している。入居者と職員でつくる大判のカレンダーは、毎月季節感を考えつつ取替えられている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居前の生活が感じられる設えとなっており、各部屋は居心地よく整えられている。		